

営農ファイル

農産園芸部門

農作業メモ

ハウス胡瓜

促成の摘心栽培では子孫づる、つる下ろし栽培では主枝となる子づるの収穫期です。ハウス内の温度管理は全作型で午前中は26～28℃、午後は23～25℃、夜間は12～14℃を目標に管理します。

摘心栽培では採光・通風を良くするために孫づるまでは規則的に摘心し、ひ孫以降は成長点を2～3本確保しながら込みあつた場所の枝を中心に整理します。追肥は10aあたり窒素成分で、月に5～6kgを灌水時に施用します。

つる下し栽培でも着果が安定してきたら、午前中は空中湿度を確保するために内張りビニールの開閉により湿度調整し、追肥は摘心栽培と同様に行います。

今年は、天候がよく、日射量も

強いいため、灌水については、こまめに行ってください。

ハウス閉め切り前の虫の防除を徹底してください。

MYSVの発生時には、抜根し、蔓延防止をしてください。

ニラ

低温期に入りスリップスの動きは鈍くなるものの存在はしています。徹底防除をしてください。また、今

期は暖冬の予想となっており、こまめな換気を行わないと湿度が籠り病気の発生を助長します。こまめな換気・防除を行い、病気が入らないようにしてください。低温多湿状態では白斑葉枯病の発生が助長されます。

トマト類

低温期に入るとハウスサイドを閉める時間が多くなります。

循環扇の運転、ダクト送風、こまめなハウス開閉等でハウス内の湿度を低減してください。ハウス内が多湿になると軟腐病、疫病、灰色カビ病、斑点病、斑点細菌病等の発生が懸念されます。

各病気に対しての農薬散布によ

る予防防除をしてください。

樹勢の状態にもよりますが、早めの主枝更新・摘房の実施による樹勢回復をしてください。また、コナジラミ等の害虫に関しましても継続した防除をしてください。

イチゴ

〔厳寒期に備え、草勢管理に努める〕

○栽培管理

生育が旺盛に見えてきますが、養水分の吸水量は減ってきます。施肥量が多いと土壌養液濃度が高くなつて、吸収が抑えられる可能性が高いので追肥は草勢を見ながら行ってください。厳寒期は温度管理が非常に重要です。注意してこまめな温度管理を行ってください。

○病虫害対策

摘葉を行い、ハダニ対策としてベタバタ系と化学農薬のローテーションで葉裏までしっかりとかけてください。うどんこ病も広がってからは防除が難しいので、予防散布を徹底してください。

ぶどう

剪定の方法によっては翌年の樹

勢に大きく影響します。樹勢に応じて、強いものは結果枝を多く、弱いものは少なく残すようにしてください。また粗皮・巻きづる等は、病虫害の越冬源となるため除去してください。

きんかん

果実が成熟期に近くなる頃から、薬剤散布やハウス内の湿度による果実の濡れにより裂果します。このため、薬剤散布は成熟期（12月中旬頃）以降については、できるだけ実施しないようにしてください。また、成熟期以降はうるみ果防止のため、ハウス内気温を外気温と同等程度に抑えてください。完全着色（リング抜け）の為に灌水を切らずに少量の灌水をしてください。

着果時期が遅れた圃場については、12月中旬頃まで秋季加温を実施し、果実肥大を図ってください（昼温27～28℃、夜温は、外気温+3℃設定で管理し、徐々に降温してください）。